

与野南小だより

6月号 令和5年6月1日発行 第3号



さいたま市立与野南小学校

【児童数】計336名

電話 831-0157



学校ホームページ

いじめに反対! ～「ピンクシャツデー」のお話から～

校長 土屋 智樹

5月27日(土)、夏を思わせるような強い日差しの中、第46回運動会を無事開催することができました。子どもたちを温かく見守り、御支援くださった保護者の皆様や地域の皆様、御来賓の皆様にご心より感謝申し上げます。

さて、さいたま市では、6月を「いじめ撲滅強化月間」と定め、本校でもいじめ撲滅に向けた取組を実施します。そこで、「いじめ撲滅強化月間」の取組の一つとして、5月31日(水)のお話朝会で、子どもたちにいじめ防止に関するお話をしましたので、その内容の一部を紹介します。

「ピンクシャツデー」という言葉を皆さんは聞いたことはありますか。毎年、2月の最終水曜日を「国際ピンクシャツデー」とし、いじめをなくそうと呼びかけるキャンペーンの日とされています。「日本ピンクシャツデー公式サイト」によると、このキャンペーンができたのは、次のような出来事がきっかけとされています。

2007年2月、カナダのある学校で、ピンクのシャツを着て登校した少年がからかわれて、いじめられました。それを聞いた上級生の2人がその日の放課後、75枚のピンクのシャツやタンクトップを購入し、インターネットで「明日、一緒に学校でピンクのシャツを着よう」と呼びかけました。翌朝、2人が校門でピンクのシャツを配ろうとしたその時、呼びかけに賛同した数百名の生徒が、ピンクのシャツやピンクの小物を身に付けて続々と登校してきました。2人の思いが一夜のうちに広まったのです。学校中がピンク色を身に付けた生徒たちであふれ、やがていじめは自然となくなりました。この出来事が地元メディアで取り上げられたことがきっかけで、「ピンクシャツデー」が生まれ、今では世界の約180の国や地域に広がっています。

このお話を聞いてどんなことを感じたでしょうか。私は、いじめに対して学生たちが言葉や暴力ではなく、ピンクのシャツを着て、いじめられた学生に連帯する思いといじめに反対する気持ちを、行動で意思表示をしたことにとっても感動しました。いじめを見ても「逆に自分がいじめられたらどうしよう」と思い、見て見ぬふりをしてしまう人もいるかもしれませんが、しかし、一人ではできなくても、このエピソードのように、「いじめに反対だ」という気持ちをみんなと一緒に伝えることができるのです。もしいじめが起きてしまったら、南っ子には、このカナダの学校のように、「いじめに反対!」の気持ちを行動で示してほしいと思います。また、人の痛みが分かり、友達だけでなく、どんな子に対しても優しい気持ちで接することができる人になってほしいと思います。そうすれば、きっといじめはなくなるのではないのでしょうか。

いじめの問題について考え、いじめが起きない集団や学校を作ろうとする意識を高めるきっかけとして、今回お話朝会で子どもたちに話をしました。今月は、児童の豊かな人間性や社会性を育む取組の充実を図るなど、いじめの未然防止に向けた取組を重点的に行います。「みんなで学ぶ みんなで伸びる」友達を大切に笑顔輝く学校を子どもたちと一緒に作っていきたいと思います。